

韓国・知識財産処が進める「バイブコーディング型」AI行政革新：現場公務員が自らアプリを作る新時代

2026年、韓国の知識財産処は「バイブコーディング（自然言語によるコーディング）」を導入し、専門知識のない職員が数時間で業務アプリを自作できる体制を構築しました。これは中央集権的なシステム開発から、現場主導の「分散型開発」へのパラダイムシフトを意味します。

現場主導の「開発・共有・拡散」サイクル



行政のあり方を変える「二層構造」の戦略



高度な審査基盤と、現場の小さな不便を解消するアプリ開発を並行して推進。

幹部自らがアプリ開発を体験することで、組織全体の文化変革と意思決定の迅速化を図る。

国家規模で広がる「AI政府実験室」

韓国政府全体におけるAI開発コミュニティの急速な拡大（2026年8月時点）

指標（2026年8月時点）	実績値
AI政府実験室 プロジェクト数	405件
公共GitLab 登録者数	1,000人超
公開済みプロジェクト数	189件

運用開始からわずか1カ月で405件の実験プロジェクトが誕生し、官民で成果を共有。